

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年5月23日

学校法人希望学園 葛飾こどもの園幼稚園

昨年度は、事業所としての働き方の見直しを進めると同時に、数人の大学機関の教員と若手教諭が中心となり月一程度のケース検討会、また、研究会、学会発表、シンポジウム参加なども力を入れインクルーシブな保育を大切にする幼稚園としての学びにも力を入れてきました。園全体で必要な子どもの情報を共有し連携すること、クラスを越えて保育者同士、保護者同士が支え合うことなど、インクルーシブな保育を大切にしていく上で避けることのできない“保育の質の向上”につながる保育作りを園全体で共有していくことを意識してきました。

今回の関係者評価についても、全在園児保護者を対象にアンケートをお願いし進めました。今後、この結果より客観的に自園を見つめ直し、子どもたちだけではなく保護者の方においても対話のある、より豊かな園生活としていくことを目指します。

下記に、令和6年度に行ったアンケートに基づき、葛飾こどもの園幼稚園の自己評価(抜粋)を作成しましたので掲載いたします。

■教職員自己評価

○本園の教育目標

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1、自然、命を感じ感謝のできる生活 | 愛され、信頼し頼れる力 |
| 2、身体全身を十分に使い、遊びきる生活 | 考え挑戦し、失敗できる力 |
| 3、興味関心からモノゴトを作りだす生活 | 自分らしく表現し枠にはまらない力 |
| 4、お話をとおして言葉や遊びを楽しむ生活 | 話を聞き楽しみイメージする力 |
| 5、いざこざも経験しながら遊び学ぶ生活 | 葛藤する日常から関係を築く力 |

○令和6年度の重点的に取り組む目標・計画

保育においては、特に生活に関する“さよならの会”や“預かり保育”への移動時などに時間をかけて荷物の整理や確認等を行い、年少児であっても時間をかけて、自身で考え意識して行動することができるようになることを願い計画。

○教職員による自己評価、実に 14名による5段階評価

- | | |
|---------------|------|
| 1、教育課程 | 3. 6 |
| 2、安全管理 | 3. 6 |
| 3、研 修 | 3. 8 |
| 4、保護者・地域との連携 | 3. 7 |
| 5、特別支援教育 | 3. 5 |
| 6、預かり保育、子育て支援 | 3. 9 |

○総合的な評価結果について

コロナ騒動以降、園全体での学びや研修の機会など、日常の保育実践について共に考え試行錯誤する機会が減ってきていることや、幼稚園として働き方の見直しを進めていくなかで、形やマニュアルのないインクルーシブ保育やコーナー活動、また、子どもと作っていく保育活動などの質を保ち継続していくことの難しさを改めて感じています。

これらのことから、さまざまなチーム(クラス間や預かり保育、研究)間の横のつながりやコミュニケーションを取り情報を共有していくこと、また、保育内容や実践については、コミュニケーションの取り方について様々な方法を検討しながらチームとしての機能をより高めていく必要を感じています。教職員全体で課題を共有していくこと、その課題に若手保育者それぞれが主体的に取り組んでいくこと、そして、その取り組みに対する園としてのプラスの評価を示していくことにより、学び合えるチームとしていくことが課題であると考えています。

■学校関係者評価

○今後の取り組むべき課題

安全教育・対策	非常時や園外活動ごとに研修となる時を持ち、関係者にも共有。
保護者対応	多様な生活や様々な家族の在り方を考慮した柔軟な対応の検討。
職員の働き方	分業や役割り分担、また、責任者を明確にして先を見通した計画作り。

○園関係者による評価 51名(保護者)8名(卒園児保護者、評議員)計59名による5段階評価

1、教育目標・園活動	4. 7
2、保護者対応	4. 3
3、施設・設備	4. 3
4、教職員の対応	4. 7
5、総評	4. 8

○学校関係者評価結果について

今年度、保護者に対しては、園児数が半減していること、そして、数年をかけて預かり保育の充実に取り組んできたことから保護者会の参加率が高まってきたこと、また、保護者会自体が小人数で行うことになってきたため、園からの活動に対する説明や考え方が伝わりやすくなってきていることを実感しています。また、さまざまな体験活動等も同様で、活動をとおして子どもたちの成長や変化について共感を持って話すことができるようになってきています。

保育の中心に位置づけられる“インクルーシブな保育”や“一人ひとりの子どもと向き合う保育”などは、事あるごとに子どもや保護者と対話しながらの保育となっていることも保育内容の理解につながっているものと思われます。

これから大切になるのは、園が大切にしているねらいや保育内容、園生活について、特に新しい保護者の方々に対しては説明だけでなく、保護者間の仲間活動をとおしても理解が進み大切なことが引き継がれていくことを願っています。